



協働学習のある 英語授業をめざして

ライブ!!
ティーチャーズセミナー
in
国際教養大学

理論に照らし合わせてその実践の効果を理解する!

このDVDは、2015年10月、国際教養大学にて開催された第1回ティーチャーズセミナーの模様を収録したものです。

ワークショップ

公開レクチャー

理解度
満点!!

授業組み立てのポイントについて 実践例から学ぶ!

今回は「協働学習のある英語授業をめざして」をテーマにして、ワークショップでは、広島市立井口中学校の**胡子美由紀先生**が、「生徒が互いに磨き合う学習環境の構築」について、また、岡山県立岡山一宮高等学校の**目崎浩子先生**が、「高等学校での協働学習の実践」について紹介しています。参加者が生徒となって学習過程を体験しながら学ぶ形式で進められ、ペアワークやグループワークが、生徒の学びを促進し、助け合う心を育むことを実感することができました。

また、国際教養大学の**内田浩樹教授**が、大学院の学生やセミナー参加者と共にワークショップで紹介された活動を**英語教育理論の観点から分析する公開レクチャー**を実施しました。理論に照らし合わせてその効果を理解していることが、よい実践を生み出す条件となります。

お二人の先生方の授業実践例と英語教育理論的にその効果を理解することで、明日からの英語授業のための大きなヒントが得られることでしょう。



[ワークショップ 1]
講師: **胡子 美由紀**
広島市立井口中学校教諭



[ワークショップ 2]
講師: **目崎 浩子**
岡山県立岡山一宮高等学校教諭



[公開レクチャー]
講師: **内田 浩樹**
国際教養大学教授



商品番号 **E112-S**
全4巻 24,000円+税
各セット12,000円+税(送料別)
※Aセット・Bセット(各2巻・分売不可)での販売。

A
セット

E112-A1

ワークショップ 1

E112-A2

公開レクチャー 1

「コミュニケーション力と英語活用力を育成する指導」

講師: **胡子 美由紀**
(広島市立井口中学校教諭) **138分**

本講座では、生徒が英語ということばに興味をもち、仲間と学びを深めていく中で他者とかかわり合う力を鍛え、ひとりの人間として豊かに成長していくことをめざした日々の実践を4技能統合型言語活動と協働学習を軸にして紹介します。

- 胡子美由紀先生の紹介
- はじめに ■教師の自己紹介の方法
- 授業を行う上で大切な心構えと10ルール
- 生徒自身の自己紹介 ■Today's Goal
- 実際の授業ビデオ
- 授業(ビデオ)を観る視点
- Warm up Numbers
- Impromptu Chat
- One Minute Monologue
- Debate ■まとめ



講師: **内田 浩樹**
(国際教養大学教授) **73分**

<講義の主な内容>

- 生徒が達成感を感じるために必要なファクター
- コミュニケーションを取りやすい雰囲気をつくる活動
- 音読はスピーキング、リーディング?
- 生徒に話させるための工夫
- 生徒の気持ちを高めるための工夫
- ユニバーサルデザインと協働学習 他

B
セット

E112-B1

ワークショップ 2

E112-B2

公開レクチャー 2

「教科書を繰り返し読ませる工夫 ~共働学習を通して~」

講師: **目崎 浩子**
(岡山県立岡山一宮高等学校教諭) **104分**

本ワークショップでは、教科書のインプットからアウトプットまでを徹底的に周囲との関わりの中で進めていく方法をご紹介します。

- 目崎浩子先生の紹介
- はじめに ■アイスブレイキング
- 自己紹介 ■Count up and down game
- 授業組み立てのポイント ■時間を設定
- 何をするか明確 ■仲間との関わり
- 教科書を使った活動(English Communication I)
- Vocabulary Input ○Silent reading
- Content Check ○Grammar Check
- Reading Aloud チャンクシート/突っ込み読みシート ○Q&A ○Summary
- Silent reading (2回目) ○間違い探し
- 表現活動(ニュースキャスター)

講師: **内田 浩樹**
(国際教養大学教授) **94分**

<講義の主な内容>

- Vocabulary Inputでの短期的なゴールとは
- 単語の短期記憶と長期記憶
- Content Check (和訳先渡し授業について)
- Grammar Check (高校生レベルでの説明について)
- Summaryでの協働学習の仕組み
- 高校3年生で長文を扱う授業のあり方について 他

